



美ら島アスコンの外観

美ら島アスコン完成

大成ロテックと七和

環境配慮し業務効率化

大成ロテックと七和（那覇市、伊志嶺匡社長）のJVが建設を進めていたアスファルト合材工場「美ら島アスコン」

（沖縄県沖縄市登川）が完成した。同工場は、脱炭素を含めた環境への配慮をコンセプトに、大成ロテックの沖縄合材工場を全面リニューアルしたものの、アスファルト合材製造時のカーボンニュートラル

化が期待できる。DX（デジタルトランスフォーメーション）の一環として、大成ロテックが独自開発したクラウド型受発注システム「アスプラネットシステム」を導入し、業務効率化も図る。

環境配慮への取り組みでは、高効率機器の採用と稼働効率化を目指す省エネ型アスファルトプラント設計、合材製造燃料のA重油からカーボンオフセットLPG（液化石油ガス）への転換、中温化（低炭素）合材製造装置の導

入、グリーン電力への転換、事務所の省エネ建築化などを行った。

開所式には両社のほか、行政、設計・施工関係者ら48人が出席した。火入れの儀では、大成ロテックの加賀田健司社長、七和の伊志嶺社長、美ら島アスコンの小川裕之工場長、沖縄市議会の瑞慶山良一郎議長、沖縄しまて協会の金城博専務理事がスイッチを押し、プラントに点火し、関係者代表が祭壇に玉串をささげ、安全を祈願した。

加賀田社長は「工場名『美ら島アスコン』には、インフラ整備だけでなく環境にも配慮し、沖縄という美しい島を後世に残したい思いを込めた。工場のロゴは、社員たちのアイデアで、ハイビスカスのアイデアで、ハイビスカスなど沖縄の自然をちりばめている。工事部門でJVを組成している七和と製品部門でも協力することで、これまで以上に沖縄のまちづくりに貢献し、質の高い製品とサービスを提供したい」と意気込んだ。

※無断転載・複写不可

